

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	現代文B	学年	3	類型	I・II・III
単位数	2	教科書	精選 現代文B	出版社	東京書籍		
副教材	精選現代文B学習課題ノート、最新国語便覧（浜島書店）、共通テスト対策問題集						

学習の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方・感じ方・考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
授業の概要	論理的な文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価できる力を身に付けることで、人間や社会、自然などについて自分の考えを深め発展させて考える力を養います。また、文学的な文章では、書き手の意図や人物・情景・心情の描写を的確に捉え、表現を読み味わえるようにします。2学期以降は演習を多く取り入れ、大学入試に対応できる力を養います。

学期	単元	教材	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	⑤
年間 学期	評論1	言語と記号	・論の展開を意識して主張を理解し、言語に対する筆者の考え方や自己の考え方を比較する。	○		○	◎	
	小説1	檸檬	・小説における場面の描写を表現に即して捉え、登場人物の心情を理解する。 ・「檸檬」の持つ意味について話し合い、考えを深める。		◎		◎	○
	評論2	環境問題と孤立した個人	・取り上げられる話題をたどりながら近代の自然観を捉え、環境問題についての考えを深める。 ・現代の社会における自分の生き方について考える。	○		○	◎	
	随想	言葉を生きる	・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。	○		◎	○	
学習 学期	評論3	社会の壊れる時	・事例と引用を用いた論の展開を確かめながら主張を捉え、知性の意義について自分の考えを深める。		○	○	◎	
	小説2	舞姫	・文語文で書かれた小説を読み、内容を理解して味わう。 ・時代背景に注意しながら主人公の心の葛藤を読み取り、人間の生き方について考える。 ・太田豊太郎の考え方や行動についてどのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。		○		◎	○
	評論4	他者の声 実在の声	・筆者の述べる考察を論理的に理解し、物事の捉え方の幅を広げる。 ・比喩や例示の意図を理解することで要旨を捉え、哲学的な思考の方法を理解する。	○		○	◎	
計画 学期	評論5	抗争する人間	・社会構造を分析する評論を読み、その内容を的確に把握する。 ・人間の社会性と倫理観についての筆者の考察を理解し、人間に対する理解を深める。	○	◎		○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取った話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的・意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまり・漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物（感想文、課題、ノート、レポート等）、小テスト（漢字テスト、確認テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。				

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	古典B	学年	3	類型	I・II
単位数	3	教科書	高等学校 改訂版 古典B	出版社	第一学習社		
副教材	高等学校改訂版古典B学習課題集・これからの古典文法・精選漢文・最新国語便覧						

学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を育てます。
授業の概要	古典を読む力を高め、作品の価値や内容、及び思想や感情を、構成に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を広く、深くしていきます。その一助として、古典の学習に役立てるための、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けていきます。

学年	学期	単元	教材	学習内容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年間 学習 計画	1 学期	説話	発心集 今物語	・起承転結のはっきりした説話を読んで大意把握の力を養おう。	○			◎	○
		随筆(一)	枕草子	・会話や敬語に注意して、登場人物の関係を把握する。 ・宮廷生活の様子を感じさせ、中古文学への理解を深める。	○			◎	○
		逸話	不顧後患 不若人有其宝	・登場人物の心情を理解し、話の主題を理解する。 ・句法に注意して正しく訓読し、話を踏まえた主張を読み取る。	○			○	◎
		物語(一)	源氏物語	・『源氏物語』の特色を理解し、内容への関心を高める。 ・光源氏の心境をたどり、長編物語ならではの壮大な構想の一端を理解する。	◎				○
		評論(一)	俊頼髄脳 無名抄	・和歌についての作者のとらえ方を読み取る。 ・登場人物の関係を調べて、文学的知識を身につける。	○			◎	○
	2 学期	古代の史話	唇亡齒寒	・長い文章を読み、漢文を読解し鑑賞する能力を増進する。	○			○	◎
		物語(二)	大鏡 言語活動 (問題演習)	・さまざまなエピソードを語った話を通じて、歴史物語のおもしろさを味わう。 ・藤原氏の栄華がどのようにして形成されたかを考える。	◎			○	○
		漢詩の鑑賞	古体の詩	・優れた詩を読み味わう。 ・文学作品を鑑賞する能力を高める。	○			○	◎
		評論	蜻蛉日記 紫式部日記	・自照文学として筆者の処世訓や心のあり方に注目させ、人物像を考える。	○			◎	○
		明代の文章	売柑者言 (問題演習)	・明代の文章を読み、現代に通じるものの考え方を理解する。 ・漢文を正確に読んで、文意を理解する。	○			○	◎
3 学期	近世の小説	雨月物語	・作者や作品の文学史上の位置について理解する。 ・話の展開を把握し、おもしろさを味わう。				○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
古典を読む力を高め作品の価値について自ら考察するとともに、我が国や中国の文化関係について理解を深めようとする。	的確に話を聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、まとめようとする。	調べ学習の成果や自分の考えを、相手や目的、意図に応じて的確にまとめ、表現しようとする。	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしようとする。	古典の理解に役立てるために、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けようとする。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物(感想文、課題、ノート、レポート等)、小テスト(単語テスト、確認テスト等)の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の内容、姿勢、意欲、積極性等も評価の対象とします。				

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	古典B	学年	3	類型	Ⅲ
単位数	2	教科書	精選古典B 改訂版	出版社	大修館書店		
副教材	精選古典B学習課題集・これからの古典文法・精選漢文						

学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を育てます。
授業の概要	古典を読む力を高め、作品の価値や内容、及び思想や感情を、構成に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を広げ、深くしていきます。その一助として、古典の学習に役立てるための、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けていきます。

学期	単元	教材	学習内容	評価の観点					
				①	②	③	④	⑤	
年間	1学期	説話	古今著聞集 今昔物語集	・起承転結のはっきりした説話を読んで大意把握の力を養おう。	○			◎	○
		随筆	枕草子	・会話や敬語に注意して、登場人物の関係を把握する。 ・宮廷生活の様子を感じさせ、中古文学への理解を深める。	○			◎	○
		逸話と寓話	不死の薬	・登場人物の心情を理解し、話の主題を理解する。 ・句法に注意して正しく訓読し、話を踏まえた主張を読み取る。	○			○	◎
		物語(一)	大和物語 大鏡	・和歌を詠むまでの登場人物の心情の推移を読み取る。 ・語り手の人物評価の視点や判断基準を考える。 ・歴史の表と裏の関係について考え、作品の意義を理解する。	◎			○	○
		日記	蜻蛉日記 紫式部日記	・自照文学として筆者の処世訓や心のあり方に注目させ、人物像を考える。	○			◎	○
学習	2学期	史伝	荊軻	・長い文章を読み、漢文を読解し鑑賞する能力を増進する。	○			○	◎
		物語(二)	源氏物語 言語活動 (問題演習)	・『源氏物語』の特色を理解し、内容への関心を高め。 ・光源氏の心境をたどり、長編物語ならではの壮大な構想の一端を理解する。	◎			○	○
		漢詩	桃夭 子夜呉歌	・優れた詩を読み味わう。 ・文学作品を鑑賞する能力を高める。	○			○	◎
		評論	古今和歌集仮名序 無名抄	・和歌についての作者のとらえ方を読み取る。 ・俊成と俊恵の歌論と歌風を理解し、両者の違いを把握する。	○			◎	○
		思想	諸子百家	・道家的な生き方と儒家的な生き方の違いについて考える。 ・背景となる諸子百家の状況についての理解を深める。	○			○	◎
		3学期	近世の小説	雨月物語	・作者や作品の文学史上の位置について理解する。 ・話の展開を把握し、おもしろさを味わう。	○			○

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国や中国の文化関係について理解を深めようとする。	的確に話を聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、まとめようとする。	調べ学習の成果や自分の考えを、相手や目的、意図に応じて的確にまとめ、表現しようとする。	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしようとする。	古典の理解に役立てるために、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けようとする。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物(感想文、課題、ノート、レポート等)、小テスト(単語テスト、確認テスト等)の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の内容、姿勢、意欲、積極性等も評価の対象とします。				

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	国語表現	学年	3	類型	I
単位数	3	教科書	国語表現 改訂版	出版社	教育出版		
副教材	国語表現演習ワーク						

学習の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めます。また、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。
授業の概要	適切に表現する力、総合的なコミュニケーションの力を高めるために、多様な学習活動を通して表現力を高め、大学の推薦入試やAO入試、就職試験、更には社会人として必要な基本的なスキルを段階的に学習していきます。

学年	学期	単元	教材	学習内容	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
年間 学習 計画	1 学期	文章表現の基礎	表記の仕方 推敲 説明の方法	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現に必要な基礎力について確認する。 推敲するときの観点を学び、他者に理解されやすい文章の書き方を学ぶ。 適切な順で書くことを学び、わかりやすい説明文を書く。 	◎		○		○
		声の表現	声を出そう 文字を声に変える 声の発表会	<ul style="list-style-type: none"> 声の出し方を学ぶ。 声の高低や間の工夫を学ぶ。 他者の興味関心を引く紹介と朗読の工夫について習熟する。 	○	◎			○
		小論文Ⅰ	意見を述べる 文章の型 構成ノート 演習 文章のリフォーム	<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠を短文で書く。 文章構成の種類を学ぶ。 小論文執筆の準備の仕方を学ぶ。 「問い」「意見」「根拠」に着目する。 推敲する観点を学ぶ。 	○		◎		○
		人とつながる言葉	挨拶と人間関係 待遇表現	<ul style="list-style-type: none"> 自らの言語生活を検証する。 敬語の使用方法を理解する。 	○	○			◎
	2 学期	言葉遊びと創作	言葉遊びを楽しむ 川柳を作る	<ul style="list-style-type: none"> 言語表現の多様さを理解する。 川柳の批評性を理解する。 	○		◎		○
		言葉を届ける	電子メール 電話とメモ 手紙	<ul style="list-style-type: none"> 電子メールのマナーを理解し、適切な形式と内容で電子メール文書を作成する。 適切な電話対応をし、メモを取る。 自由な手紙を書くことで、表現の可能性について考える。 	○		◎		○
		小論文Ⅱ	要約の方法 課題文演習 課題文型小論文	<ul style="list-style-type: none"> 的確な読解力と適切な表現力を身に付ける。 課題文の論点を的確に見つける。 明確な意見表示と十分な根拠で展開させる。 	○		○		
	3 学期	論文作成法	論文作成の準備 論文作成の実際 論文の仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> 論文作成の手順を学ばせる。 各作業の留意点を理解させる。 執筆時に必要な事項に習熟させる。 	◎		○		○
		プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの実際	<ul style="list-style-type: none"> 情報の視覚化の方法を知り、効果的なプレゼンを行う。 テーマと内容について工夫し、実際例をもとに全体の構成方法や効果的な話し方の技術を習得させる。 	○	◎	○		
	3 学期	面接	自己を分析する 模擬面接	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深めて自己アピールを作成させる。 模擬面接を通して面接の基本事項を学び、実践力を身につけさせる。 	○	◎			

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準				
① 関心・意欲・態度	② 話す・聞く能力	③ 書く能力	④ 読む能力	⑤ 知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的・意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価の方法				
定期考査に加え、提出物の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性なども評価の対象になります。				

